



# 米国ハワイ大学 医学部留学

医学科 6年 戸次 宣史

## 【プログラム概要】

〈場所〉米国ハワイ州 Kuakini Medical Center  
〈期間〉2012年6月3日(日)～6月29日(金)(4週間)  
〈内容〉1週間は家庭医 Dr.Tokeshi のクリニックで、残りの3週間は内科チームで、臨床実習を行う。  
〈費用〉宿泊費(\$800) + 交通費 + 食費 (Kuakini Medical Center に隣接するアパートに滞在)



第 36 号

2012年10月発行

佐賀大学医学部

〒849-8501

佐賀市鍋島5丁目1番1号

http://www.saga-med.ac.jp/

新聞編集委員会

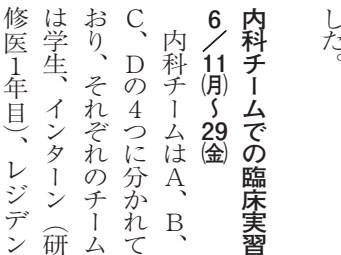
印刷/株昭和堂

はじめに  
この度2012年6月、米国ハワイ大学医学部の提携病院である Kuakini Medical Centerにて臨床実習をさせて頂きましたので、御報告させて頂きます。この報告書を通して、より多くの方に海外臨床実習への関心を持って頂ければ幸いです。



Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Kuakini Medical Center(以下 KMC) はわずか38床の「日本慈善病院」という施設から始まりました。日本人移民の作った病院で、1900年にチャイナタウンの大火事で住む家をなくしてしまつた日本人移民を救うために「日本慈善協会」が創立したものです。1917年に現在のクアキニ通りに移転し(ワイキキから車で15分)、その後1979年に9階建ての医療オフィス、1980年には10階建ての老人ホームが建ち、屋上にヘリポートが設けられました。現在、急性期病棟250床という小さな病院ではありますが、急性期医療病院と



Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Dr.Tokeshi のクリニック実習 6/3(日)～10/10(日)  
Dr.Tokeshi はハワイ大学医学部の一期生で、ハワイ州の家庭医です。KMCの医師であり、KMCに隣接する医療オフィスで外来診療も行っています。患者からの信頼が非常に厚く、数多くの名誉ある賞を受賞し、ハワイ州で最も素晴らしい家庭医と言われています。

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

まづ Dr.Tokeshi の担当患者全員の診察、カルテ記載を行い、6時半からの回診で患者の報告を行います。回診後は Dr.Tokeshi のクリニックへ移動し、外来診療実習を行います。外来診療では、多くの患者の問診・身体診察・採血を任せられ、どのように問診・身体診察を行うべきか、丁寧な指導を受けます。夕方からは再び KMC に戻り、朝同様に担当患者の診察・カルテ記載を行います。水曜と土曜は、外来診療が午前のみで、日曜は朝の回診後に老人ホームの訪問診療を行います。また、Dr.Tokeshi の新規入院患者があつた際には24時間、いつでも呼び出されます。

内科チームでの臨床実習 6/11(月)～29(金)  
内科チームは A、B、C、D の4つに分かれており、それぞれのチームは学生、インターン(研修医1年目)、レジデント

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Dr.Tokeshi のクリニック実習 6/3(日)～10/10(日)  
Dr.Tokeshi はハワイ大学医学部の一期生で、ハワイ州の家庭医です。KMCの医師であり、KMCに隣接する医療オフィスで外来診療も行っています。患者からの信頼が非常に厚く、数多くの名誉ある賞を受賞し、ハワイ州で最も素晴らしい家庭医と言われています。

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

まづ Dr.Tokeshi の担当患者全員の診察、カルテ記載を行い、6時半からの回診で患者の報告を行います。回診後は Dr.Tokeshi のクリニックへ移動し、外来診療実習を行います。外来診療では、多くの患者の問診・身体診察・採血を任せられ、どのように問診・身体診察を行うべきか、丁寧な指導を受けます。夕方からは再び KMC に戻り、朝同様に担当患者の診察・カルテ記載を行います。水曜と土曜は、外来診療が午前のみで、日曜は朝の回診後に老人ホームの訪問診療を行います。また、Dr.Tokeshi の新規入院患者があつた際には24時間、いつでも呼び出されます。

海外からの留学生としての臨床実習であり、今回の実習は見学が中心だと思つていました。しかし、Dr.Tokeshi のクリニックでは多くの外来患者の問診・身体診察・採

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Dr.Tokeshi のクリニック実習 6/3(日)～10/10(日)  
Dr.Tokeshi はハワイ大学医学部の一期生で、ハワイ州の家庭医です。KMCの医師であり、KMCに隣接する医療オフィスで外来診療も行っています。患者からの信頼が非常に厚く、数多くの名誉ある賞を受賞し、ハワイ州で最も素晴らしい家庭医と言われています。

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

まづ Dr.Tokeshi の担当患者全員の診察、カルテ記載を行い、6時半からの回診で患者の報告を行います。回診後は Dr.Tokeshi のクリニックへ移動し、外来診療実習を行います。外来診療では、多くの患者の問診・身体診察・採血を任せられ、どのように問診・身体診察を行うべきか、丁寧な指導を受けます。夕方からは再び KMC に戻り、朝同様に担当患者の診察・カルテ記載を行います。水曜と土曜は、外来診療が午前のみで、日曜は朝の回診後に老人ホームの訪問診療を行います。また、Dr.Tokeshi の新規入院患者があつた際には24時間、いつでも呼び出されます。

海外からの留学生としての臨床実習であり、今回の実習は見学が中心だと思つていました。しかし、Dr.Tokeshi のクリニックでは多くの外来患者の問診・身体診察・採

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Dr.Tokeshi のクリニック実習 6/3(日)～10/10(日)  
Dr.Tokeshi はハワイ大学医学部の一期生で、ハワイ州の家庭医です。KMCの医師であり、KMCに隣接する医療オフィスで外来診療も行っています。患者からの信頼が非常に厚く、数多くの名誉ある賞を受賞し、ハワイ州で最も素晴らしい家庭医と言われています。

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診



海外からの留学生としての臨床実習であり、今回の実習は見学が中心だと思つていました。しかし、Dr.Tokeshi のクリニックでは多くの外来患者の問診・身体診察・採

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Dr.Tokeshi のクリニック実習 6/3(日)～10/10(日)  
Dr.Tokeshi はハワイ大学医学部の一期生で、ハワイ州の家庭医です。KMCの医師であり、KMCに隣接する医療オフィスで外来診療も行っています。患者からの信頼が非常に厚く、数多くの名誉ある賞を受賞し、ハワイ州で最も素晴らしい家庭医と言われています。

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

まづ Dr.Tokeshi の担当患者全員の診察、カルテ記載を行い、6時半からの回診で患者の報告を行います。回診後は Dr.Tokeshi のクリニックへ移動し、外来診療実習を行います。外来診療では、多くの患者の問診・身体診察・採血を任せられ、どのように問診・身体診察を行うべきか、丁寧な指導を受けます。夕方からは再び KMC に戻り、朝同様に担当患者の診察・カルテ記載を行います。水曜と土曜は、外来診療が午前のみで、日曜は朝の回診後に老人ホームの訪問診療を行います。また、Dr.Tokeshi の新規入院患者があつた際には24時間、いつでも呼び出されます。

海外からの留学生としての臨床実習であり、今回の実習は見学が中心だと思つていました。しかし、Dr.Tokeshi のクリニックでは多くの外来患者の問診・身体診察・採

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

Dr.Tokeshi のクリニック実習 6/3(日)～10/10(日)  
Dr.Tokeshi はハワイ大学医学部の一期生で、ハワイ州の家庭医です。KMCの医師であり、KMCに隣接する医療オフィスで外来診療も行っています。患者からの信頼が非常に厚く、数多くの名誉ある賞を受賞し、ハワイ州で最も素晴らしい家庭医と言われています。

Dr.Tokeshi との朝の回診は6時半に始まり、学生は3時半には KMC の病棟へ行き、回診

まづ Dr.Tokeshi の担当患者全員の診察、カルテ記載を行い、6時半からの回診で患者の報告を行います。回診後は Dr.Tokeshi のクリニックへ移動し、外来診療実習を行います。外来診療では、多くの患者の問診・身体診察・採血を任せられ、どのように問診・身体診察を行うべきか、丁寧な指導を受けます。夕方からは再び KMC に戻り、朝同様に担当患者の診察・カルテ記載を行います。水曜と土曜は、外来診療が午前のみで、日曜は朝の回診後に老人ホームの訪問診療を行います。また、Dr.Tokeshi の新規入院患者があつた際には24時間、いつでも呼び出されます。



# 佐賀県海外使節団に参加して



医学科5年 黒木崇子

こんにちは。医学科5年の黒木崇子と申します。まずはじめに、本報告書を作成するにあたり、佐賀県海外使節団で国内外でお世話になりました皆様、また校内新聞にて報告書掲載のご提案を下さいました戸田先生、本当に有り難うございました。この場をお借り致し

まして、厚く御礼申し上げます。これまで、厚く御礼申し上げます。これからの佐賀県、日本を担う国際的な人材を育成することを目的とし、アメリカ西海岸に大学生8名程度を2週間派遣するものです。2012年3月、私たちが第2回の使節団として派遣されました。シリコンバレー等の企業、NPO

団体、現地で活躍する起業家、研究者を訪問し、起業家精神・フロンティアスピリッツを育成することを主眼に置き、佐賀県に縁のある優秀な人材の発掘、お互いに切磋琢磨する場の提供、研修後報告会で地域に根差した支援者ネットワークを構築する事により、グローバル人材の育成・地域活性化・若者が活躍出来る場を創造することもまた目的のひとつです。

だいた理由としましては、私は将来叶えたい夢とビジョンがあったからです。大好きなスポーツと医学との共通項であるスポーツドクターとして、国内外で活動したいという強い思いがあります。広い視野を持って、どんなことにも柔軟に対応できるだけの心と身体と、そして知識を兼ね備えたドクターになりたいと常から考えております。この夢の実現には、使節団の一員として世界のアメリカの地に自らの足で立

より深く感じることができています。現地で学びたい事として、事前に私は「成功した方達100%の真似をしない」「他人を真似る事は学ぶ上では重要かもしれないが、真似だけで終わらせてはならない。きっかけとしての真似は一つのアプローチの仕方かもしれないが、そこで留まらず、さらに押し進めて自分のオリジナルを作り上げたい」と申し上げておりました。現地では様々なプログラムにおいて、日本から世界へ視

た。この場をお借り致し

た。この場をお借り致し

た。この場をお借り致し

た。この場をお借り致し

た。この場をお借り致し



線に向け、日本国外で活躍されていらつしやるいわゆる「成功者」と呼ぶにふさわしい偉大な方々にお会いすることができました。そして、有り難いお話を沢山聞かせいだきました。また、全ての方から成功のためのノウハウをご教授いただきました。そのノウハウですが、短的に表す事は出来ませんでした。そのそれぞれが独立して、かつ絡み合っており、チャンスやタイミングの要因もあり、その方々・その企業を創り上げておりました。その中でも、特に私が



それが次へのステップとなる。本当にそれぞれが重要で、かつ実はそれは根本では繋がっている要素でした。

また個人的な意見になりますが、特に印象に残った方々はとにかく大胆で、イマジネーションする力・行動力・発想・アピール力・人脈・経験など得も言われぬものでした。彼らの目はキラキラ輝いておりました。自分の成長の為に努力を惜しまれないのだな、と感じました。更に、自身や周りのモチベーションが夢の実現のために大いに関係することも明らかになりました。自分を取り巻く環境が、モチベーションを左右し得るため、より目標とするレベルに近い環境に身を投じ、夢を同じくする仲間をもつ事が本に必要なのだと痛感させられました。夢を叶えるためには常に自分をstimulateしてくれる環境におくのです。

もしも、夢や目標が無かったり、失っていたり、探索中ならば、自分をstimulateしてくれるだけの環境へ飛び出してみて下さい。きっとまた大きな一歩を踏み出せるはずです。必ず何かを感じ取れるはずです。世界の大国であるアメリカでの連日連夜の研修において、医学という自分の専攻に関わらず、多様な企業・職種の方を訪問し、お話ししてきました。沢山の勉強をさせて頂く中、今まで自分の抱いて

きた夢について、常に自問自答を繰り返しました。出発当初、自分の将来について少しは不安になったり、今までの自分を否定するかもしれないと考えていたからです。しかしながら、そんな不安や考えの類は見事に打ち砕かれました。むしろ自分の夢が膨らむばかりで、思い描いていた夢は、本当に自分が叶えたいものなのだと確信しました。夢が日に日に輪郭を帯びていきました。実現のための準備を、段階を踏んで取り組んでいこうという意識が根付き、必要なエッセンスも分かりました。本気になれば、叶わない夢は無いという言葉と、そして何より自分を信じていけるようになりました。今まで、ただ「何となく」自分の感覚に任せて動いていたことも、研修を通して、これらが今の自分を作り上げてい

る一要素であり必要な事だったのだという裏付けをすることもできました。夢の実現のため、これらを含めた色々な糧をもとに、私は変化を遂げていくのでしよう。

人生はきつと、長いよ

うで短いものです。何を目指すか・何に時間と労力を費やすかは本当に十人十色で、それでいて良いと思います。努力なんでものも、実はスケールもなければ比較する事も出来ません。自分の努力を一番に評価できるのは自分であり、それは自分の感じた満足をもって価値

付けできるのでしよう。何をもって「成功」とするかも人それぞれで、だからこそ、自分で設定した夢や目標に向かって諦めずに進んでいくこと・自己実現をすることこそが、その人にとっての「成功」なのでしょう。そして、どんな分野であれ、最終的には自分に負けてはなりません。

私は今、自分出来る事を全力で取り組み、成長し続けたいと思っております。そして夢を諦める事無く、自分に不可能の壁を作る事無く、夢に向かって邁進していきたいです。それはきつと、私の将来へ大きくかわるものだと思います。己を知り、己を律し、己に打ち勝つ事を胸に、成長しつづける充実した毎日を過ごし、いつの日

か大輪の夢の花を咲かせたいと思います。最後までお読みいただき、ありがとうございます。佐賀県海外使節団に少しでも興味をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひご連絡ください！



# 読書の秋

## 「科学と方法」

アンリ・ポアンカレ

Henri Poincaré

朝夕はめっきり涼しくなり、虫の音、中秋の月、稲穂の豊かさ、山の色づき、世は秋たけなわである。日の出は遅く、日暮れは早く、夜長の秋である。どうにもならぬ宇宙の大きさ、不思議さを感じる。虫の音を聞きながら、彼らも読書をするのだろうか？とふと想う。人にははかりしれない虫の世の何かがあるのだろうが、浅学者の私には全く分からない。分からないままに、「科学と方法」、アンリ・ポアンカレ著、吉田洋一訳(岩波書店)なる文庫本を開く。これまで何度か読んだが、数理哲学的な部分はいつこうに分らない。その意味では、この数十年私には進歩がない。この本は、1908年に出版されている。実に100年以上も前に書かれた本であるが、今でも新鮮な感覚に満ちている。アンリ・ポアンカレは、フランスの数学者であり、1854年4月29日ナンシーで生まれ、1912年7月17日58歳で没している。数学、数物理学の基本原理を確立したことで知られる著名な学者である。凡才の私には遠く理解を超えているが、一つだけ理解可能な科学哲学を実感した。ポアンカレは、「発見は素材の組み合わせである。」と言いきっている。直感の人、ポアンカレらしい洞察である。鉛筆の芯もダイヤモンドも、同じ元素Cで構成されているが、全く異質の物である。この意味を学生諸君にも考えて欲しい。本との出会いは新しい素材との出会いであり、その意味では読書は新たな組み合わせをつくる一つの手段である。医学書に限らず、異分野の本にも接して欲しい。世界は広い！私の脳みそには整理されていない素材が一杯あるように思うが、他人から見れば無邪気な錯覚かもしれない。世の中で生きるためには整理された情報をはるるん大切であるが、ポアンカレの「科学と方法」を読むと、脳みそのカオスは大きい方がよいような気がする。以下は、だいぶ以前に、学生へのメッセージとして書いた文章の一部である。ポアンカレの科学哲学が私のカオスの中で色濃く生きている。

……私も、君たちも高校を卒業して、あるいは社会人を経て、幸か不幸か、とにかく医療人への道を選択した。たぶん高校までは、「答えのある世界」で競争して、大学に入学したのだと思う。この過程で、「考えることのできる」、素材を体の中に蓄積してきた。全ての領域で、考えるための、行動を起こすための、素材を持つことは大切である。今君たちが学んでいることは、医療のプロとしての素材そのものである。素材そのものは、味気ないかもしれない。しかし、それをみずみずしい感性と行動でうまく組み合わせれば、多様な世界を創造することができる。この世界には、100種類程度の元素しか存在しない(と、言われている)。理科の教科書を開いて、元素表を見れば一目瞭然である。それなのに、この世界は極めて多様である。生物一つをとっても、様々な生き物がこの地球上に存在す



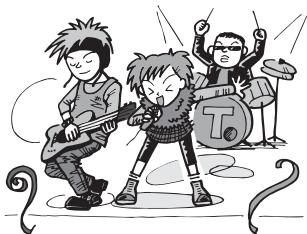
アンリ・ポアンカレ



る。この現実は何を意味するのだろうか？おそらく、世界は、「素材の出会いとその組み合わせ」で、創造できるということだ。素材がなければ、出会いがなければ、組み合わせは永遠に起こらず、新しい世界は生まれない。この意味では、宇宙もこの地球上の生き物も全て同じである。だから、素材と出会いを求めて、旅にしよう。この旅は、恋人探しでも、金脈探しでも、自分探しでも、何でも良い。とにかく、行動することである。君たちの好きにやればよい。この旅には、チマチマした地図もお金も切符もいらぬ。必要なのは、体と豊かな好奇心、即ち、生きるエネルギーだけである。これが全てである。……

# 第34回 むつごろう祭

## 今年も 10/5 ~ 10/7 に 盛大に開催されました。



前夜祭 10/5 (金)	
18:00	学年対抗クイズ
18:50	DANCE☆SHOW
19:20	オープニング・ムービー
19:30	ステージ準備
19:35	爆笑! お笑いライブ ザブングル & THE 石原 & おりがみ
20:00	学年対抗芸だし
20:30	大抽選会 沖縄旅行が当たる!?
21:00	

本祭 1日目 10/6 (土)		本祭 2日目 10/7 (日)	
9:00	開会式	9:00	朝の10分
9:30	♪現音ライブ♪	9:10	軽音ライブ
10:20	チームファイト	10:00	新企画
11:20	宝探し 説明	11:00	* 秘 企画 *
11:35	フールバトル	12:00	♪現音ライブ♪
12:35	宝探し 表彰!(^^)!	12:50	準備・リハーサル
12:50	準備・リハーサル	14:00	♪FUNKIST♪ LIVE
13:30	SEAMO ♪ Special Live	15:20	○×クイズ USJ get!!
14:50	ビンゴ大会 ガム旅行が当たる!	16:20	スケッチ大会表彰式
15:10	軽音ライブ	16:25	6年生ステージ
16:00	混声合唱	17:25	閉会式
16:25	新企画	17:30	
16:45	♪現音ライブ♪	18:00	後夜祭
17:15	ステージ準備		※学内生限定イベントです
17:30	♡ミスコン♡ CANDYS(オープニング) CHEER READING		* 21:00 花火打ち上げ予定
20:00	片付け		
20:30		20:30	



### 編集後記

10月号は、ハワイ大学医学部留學記を医学科6年生の戸次君に投稿してもらった。また、医学科5年生の黒木君に佐賀県海外使節団参加記を紹介してもらった。日本の若者が海外留学に関心がないという昨今の風潮を吹き飛ばしてくれる好記事だと確信している。学生諸君には是非一読をお願いしたい。

私は4年と数ヶ月、編集委員長を仰せつかったが、この10月号を最後に、倉岡晃夫教授(生態構造機能学)に編集長のバトンを渡すことになった。学生主体の新聞であり、解剖などを通して学生と接する時間が多く、学生の信頼の厚い倉岡教授は編集長に最もふさわしい。この新聞が、新編集長倉岡教授の指揮の下、ますます発展することを祈願したい。最後に、いっただいね私を支援して頂いた編集委員の先生方、学生諸君、学生課職員の方に、厚く感謝する次第である(戸田)。

### 新聞編集委員

戸田修二教授(編集長)  
河野 史教授、尾崎岩太准教授、藤井 可講師  
徳田悠希子(研修医1年)、野上愛、吉田紀子(医6)、森下さくら、草場香那、牟田口真理(医5)、壹岐聡一郎、合田夏希、鈴木源晟、橋本健太(医4)、尼寺那佳子、沖藤悠貴、中道あずさ、藤井玲衣奈(看4)、竹藤徳子、溝内絢子、坂井美月(看3)、岩永鴻之介(医2)  
要望などの連絡先  
学生サービス課総務  
gkseigkm@mail.admin.saga-u.ac.jp